

蓮如上人ものがたり
困苦のなかの学び

産みのお母さんがいすこともなく姿を隠されてから間もなく、お父上存如上人は正式な奥さまをお迎えになりました。蓮如さまには継母ができたわけです。

このあたらしいお母さまは、幕府の名門海老名氏の出身で如円さままい、のち(蓮如にとって)七人の弟妹を生まれました。

当時、本願寺は貧乏のどんぞであつたその上に、継母・異母弟妹の間での蓮如さまのおくらしさは、とても厳しいものがありました。

どんなに寒いときにも、ほかのきょうだいの着ている絹の小袖などではなく「こぶくめ」という木綿の白衣でありましたし、読書なさるときももしびの油が買えず、黒木をもやしたり、月の光をたよりにしなければなりませんでした。ときには二三日も食事をぬかさねばなりませんでした。

そんなつらい厳しい苦難のなかにあって、蓮如さまは、生母の残された「ねがわくは稚児のご一代に、(親鸞)聖人ご一流を再興したまえ」というご遺言を一心におもいつづけられました。

さて、蓮如上人のお勉強ぶりには、独特のものがあります。貧乏であったので、当時の正規のコースを進めなかつたということもありますが、上人の場合、むしろ進んで正規の学

蓮如上人ものがたり
困苦のなかの学び

産みのお母さまがいすこともなく姿を隠されてから間もなく、お父上存如上人は正式な奥さまをお迎えになりました。蓮如さまには継母ができたわけです。

このあたらしいお母さまは、幕府の名門海老名氏の出身で如円さままい、のち(蓮如にとって)七人の弟妹を生まれました。

当時、本願寺は貧乏のどんぞであつたその上に、継母・異母弟妹の間での蓮如さまのおくらしさは、とても厳しいものがありました。

どんなに寒いときにも、ほかのきょうだいの着ている絹の小袖などではなく「こぶくめ」という木綿の白衣でありましたし、読書なさるときももしびの油が買えず、黒木をもやしたり、月の光をたよりにしなければなりませんでした。ときには二三日も食事をぬかさねばなりませんでした。

そんなつらい厳しい苦難のなかにあって、蓮如さまは、生母の残された「ねがわくは稚児のご一代に、(親鸞)聖人ご一流を再興したまえ」というご遺言を一心におもいつづけられました。

さて、蓮如上人のお勉強ぶりには、独



問コースに反発なさったという面が伺えます。

得度(僧侶になる)は、当時のならわしひ通り、十七才のとき天台宗の青蓮院でされました。それからは、奈良興福寺大乗院別当経覚(蓮如とはいとこ関係、蓮如終生の庇護者)について古典仏教を身につけましたが、それ以後は祖父や父に従事的に問い合わせ、また自分で、親鸞さまや先輩たちのお書物を繰り返し書き写しながら真宗を学んで行かれました。

淨土真宗のみおしえは、比叡の山の上の大学校やむずかしい理屈、俗世間を離れたお坊さんのところにはない。そうではなくて、お母さまや當時いっぱいの女人たちの苦しい厳しい日々暮らしの中にこそ、響き聞こえてくださるもの。

天台なにするものぞ、
比叡山なんたるものぞ、
わたしは、苦しみ悩み、猶すなどりをしなければ生きていけぬ人々とともに、そこに響いてくださるお呼び声「念佛」を生きていくのだ。

「蓮如上人は、おりにつけおつしゃいました。仏法のおいわれはよくよく人に問うべきです。ものをよく人に問うのだとおっしゃいました。

ではいつたい、どんな人に聞えばよいのでしょうかとお伺いしましたら、仏法のことに限つて言えば、人の上下を問題にしないでだれにでもたずねなさい。いやむしろ、仏法というものは、知りそらもない人が、知っているものです」とおっしゃった。

蓮如さまご自身、田舎のお同行のなかに座つて、その人たちとの「談合」のなかで、共に学んでいたのです。

それがそのまま「(親鸞)聖人のご一流を再興した」ことになつたのです。
もう三〇年以上続いている「法座です。仮想仏婦からお願いして、お聞かせいただいている」。

「みのりを聞く会」です。

七月一日午前 正福寺で式典・法座

即如門主さま
勝林寺へご巡回

正しい宗教、淨土真宗にめざめよう
お念佛をとなえつて正しく生きぬこう
このほど勝林寺までお出掛けくださいます。

六月三十日午後 正福寺で式典・法座

七月一日午前 勝林寺ご巡回

ほんのわずかの時間でありますがあ、門徒一同、謹んでお迎えいたしましょう。
詳しくは準備委員会から後日お知らせ致します。

六月三十日午後 正福寺で式典・法座

七月一日午前 勝林寺ご巡回

六月三十日午後 正福寺で式典・法座

七月一日午前 勝林寺ご巡回

六月三十日午後 正福寺で式典・法座

七月一日午前 勝林寺ご巡回

六月のこよみ

同窓会北海道旅行

一日 同じ

二日 同じ

三日 同じ

四日 同じ

五日 同じ

六日 宮嶋幸彦氏宅仏壇入仏式
中央実習(大谷本廟)
ご巡教お迎え合同役員会

七日 同じ

八日 同じ

九日 同じ

十日 同じ

十一日 同じ

十二日 同じ

十三日 出石組仏婦連盟総会
総合検診

十三日 同じ

十四日 本覚寺永代經

十五日 同じ

十六日 同じ

十七日 同じ

十八日 納骨参拝研修旅行
山田まつゑ氏宅法事

十八日 同じ

十九日 ご巡教お迎え準備役員会

二十日 同じ

二十一日 同じ

二十二日 同じ

二十三日 みのりを聞く会
云定例法座

二十三日 同じ

二十四日 山田まつゑ氏宅法事

二十四日 同じ

二十五日 玉井克弥氏宅法事

二十五日 同じ

二十六日 みのりを聞く会
云定例法座

二十六日 同じ

二十七日 山田まつゑ氏宅法事

二十七日 同じ

二十八日 玉井克弥氏宅法事

二十八日 同じ

二十九日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

二十九日 同じ

三十日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十日 同じ

三十一日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十一日 同じ

三十二日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十二日 同じ

三十三日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十三日 同じ

三十四日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十四日 同じ

三十五日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十五日 同じ

三十六日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十六日 同じ

三十七日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十七日 同じ

三十八日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十八日 同じ

三十九日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

三十九日 同じ

四十日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十日 同じ

四十一日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十一日 同じ

四十二日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十二日 同じ

四十三日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十三日 同じ

四十四日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十四日 同じ

四十五日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十五日 同じ

四十六日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十六日 同じ

四十七日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十七日 同じ

四十八日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十八日 同じ

四十九日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

四十九日 同じ

五十日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

五十日 同じ

五一日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

五一日 同じ

五十二日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

五十二日 同じ

五十三日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

五十三日 同じ

五十四日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

五十四日 同じ

五十五日 即如門主さま
勝林寺ご巡回

五十五日 同じ

名前うた子に教えられ
夫に先立たれ、六十もとつに過ぎた
私ですが、今、これがほんとうの幸せと
しみじみと幸福感に浸っておりました
と申しますのは、孫たちのことです
います。
上の兄ちゃん、下の女の子。どちらも
幸いどちらの学校も、家からそんなに
遠くありませんので、土曜・日曜、祝祭
日には、ふたり揃って帰ってきてくれま
す。

今時の若者はと、世間ではとく心配
の種になり、時には疫病神みたいに敬遠
されおりませんが、うちの孫はさいわい
、親に心配をかけない、わたしおばあち
ゃんをいたわることが、信条のようです
ます。

これは、亡くなつたおじいちゃんの跡
です。
もう赤ん坊の時分から、お仏壇のまえ
にすわらせました。お寺のご法座にも孫
の手を引いてお参りしました。日曜学校
には二人ともずっと楽しんで通ってくれ
ました。

兄と妹が二人並んで如来さまにご挨拶
してくれます。わたし、うしろに座つて
いて、涙かこぼれるほど嬉しいのです。

「負うた子におしえられ」と。
孫たちの礼拝の後ろ姿、背中から、つ
いせんぞ厳しいみ教えをいただいたので
ありました。

(中央教習参加のご婦人から)

名前うた子に教えられ
夫に先立たれ、六十もとつに過ぎた
私ですが、今、これがほんとうの幸せと
しみじみと幸福感に浸っておりました
と申しますのは、孫たちのことです
います。
上の兄ちゃん、下の女の子。どちらも
幸いどちらの学校も、家からそんなに
遠くありませんので、土曜・日曜、祝祭
日には、ふたり揃って帰ってきてくれま
す。

今、国立・公立の大学で勉強しております。
幸いどちらの学校も、家からそんなに
遠くありませんので、土曜・日曜、祝祭
日には、ふたり揃って帰ってきてくれま
す。

ご院家さまのいつかのご法話に「耳慣れ
れすすめ」というのがあったことを思い
出しました。
その夫から離れたわたしは、夫の教え
に背き、如来様をこけにしてしまってい
る。

蓮如上人さまが
耳なれぬれば なることにぞのる
おどろかす かいこそなけれ
むら雀
という歌をひいて 慈悲のなかに寝そべ
つてしまつていてるわたしをしかめて下さ
つたと聞いたのに。

夫に先立たれ、六十もとつに過ぎた
私ですが、今、これがほんとうの幸せと
しみじみと幸福感に浸っておりました
と申しますのは、孫たちのことです
います。
上の兄ちゃん、下の女の子。どちらも
幸いどちらの学校も、家からそんなに
遠くありませんので、土曜・日曜、祝祭
日には、ふたり揃って帰ってきてくれま
す。

夫に先立たれ、六十もとつに過ぎた
私ですが、今、これがほんとうの幸せと
しみじみと幸福感に浸っておりました
と申しますのは、孫たちのことです
います。



ところがこないだ五月の連休明け。
いつものように二人の後ろに居て、ほの
ぼのした幸福感に浸っているとき、ハッ
とさせられたのです。
肝心のわたし自身はどうなかつて。

如来様のお慈悲のなかにいらせていました
だくのも、この子たちよりずっと長い。
この子たちのおじいちゃん、すなわちわ
が夫にみちびかれ教えられたのも、この
子たちよりもっともっと長い。だのに
わたしは。

孫がすなおにそだつた、そればかりを
手柄みたいによろこんで、自分自身はどう
うなのか。

わが夫はつねづね「お慈悲のなかでの
懈怠を慎もう」といつていた。そのよう
にくらしていた。

その夫から離れたわたしは、夫の教え
に背き、如来様をこけにしてしまってい
る。

納骨参拝 研修旅行 5日

参加申し込みは
納骨遺族は何人参加されても結構です。お一人は必ず参加下さい

蓮如上人の吉崎御坊へは是非お参りしましょう。

勝林寺の長女
希里
四月三〇日
3500gで生まれた
里に希な美人の
きざしはまだ見え
ないが
健康には
かがやいている

希里

わたし
希里 (きり)

お仏壇の莊嚴 (お飾り) を確かめて 見ましょう

これは平素日常の莊嚴(じょうごん)
です。三つ具足の莊嚴といいます。



電話 0796-52-3083 テレホン法話 0796-52-5800